

「妊娠・分娩と更年期障害」

—更年期障害に関与する妊娠・分娩時諸因子の検討—

分担研究：妊娠・分娩と中高年婦人の健康に関する研究

研究協力者 東京医科歯科大学医学部産婦人科
麻生武志 小山嵩夫 久保田俊郎 田辺文子
東京大学医学部産婦人科
矢野 哲 相良洋子 中澤直子

要約：過去に経験した妊娠・分娩と更年期障害の関連を検討する目的で、独自の質問表を作成し、更年期女性を対象に聞き取り調査をおこなった。今回は単純集計の段階で結論的なことは言えないが、出産時の産科的要因や産後の身体状況のみならず、妊娠・出産・育児をとりまく心理社会的要因も更年期障害に関連している可能性が示唆された。また、性成熟期の内分泌的環境やライフスタイルなども更年期障害に関連している可能性が明かになった。今後さらに解析を進め、この両者を関連づける因子を明らかにすることにより、更年期障害に対する全人的アプローチのてがかりを得ることが期待される。

見出語：更年期障害、妊娠・分娩、身体的因子、心理社会的因子

研究方法：48～52歳までの更年期婦人を対象にアンケート調査を行い、更年期障害と妊娠・分娩に関わる諸因子との関連を検討した。対象は、東京医科歯科大学産婦人科中高年外来および東京大学産婦人科更年期外来受診者と、各大学関連施設（東京都管工業組合診療所、東京都教職員互助会三楽病院）人間ドック受診者で、本研究の趣旨についての説明を行い、同意の得られた婦人である。また今回の検討はpreliminaryな段階であるため、出産歴のある婦人に対象を限定した。

研究に用いた質問表は、簡略更年期指数（simplified menopausal index:以下SMI）と独自に作成した妊娠・分娩についての質問表で、前者は更年期障害に特有の10症状からなり、更年期障害の重症度を点数として客観的に表すことができる（表1）¹⁾²⁾。妊娠・分娩についての質問表は、過去に今回のような研究がほとんどなく、焦点となる項目が明らかでなかったため、既往歴、社会環境、嗜好・文化、妊娠・分娩・育児に関する身体的・心理社会的要因、および母子手帳からの記載欄など幅広い項目を含めて作成した（資料参照）。

調査は平成5年7月1日から同年8月31日までの2

表1 簡略更年期指数（SMI）

	症状の程度（点数）				点数
	強	中	弱	無	
①顔がはてる	10	6	3	0	
②汗をかきやすい	10	6	3	0	
③顔や手足が冷えやすい	14	9	5	0	
④息切れ、動悸がする	12	8	4	0	
⑤寝付きが悪い、または眠りが浅い	14	9	5	0	
⑥怒りやすく、すぐイライラする	12	8	4	0	
⑦くよくよしたり、憂うつになることがある	7	5	3	0	
⑧頭痛、めまい、吐き気がよくある	7	5	3	0	
⑨疲れやすい	7	4	2	0	
⑩肩こり、腰痛、手足の痛みがある	7	5	3	0	
合計点					

症状群	血管運動 神経系症状	精神・神経 系症状	運動・神経 系症状
割合(%)	46	40	14

・簡略更年期指数の評価法

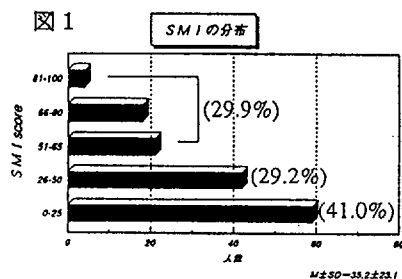
- 0～25点＝問題なし
- 26～50点＝食事・運動に気をつけ、無理をしないように
- 51～65点＝更年期・閉経外来で生活指導カウンセリング、薬物療法を受けたほうがよい
- 66～80点＝長期（半年以上）の治療が必要
- 81～100点＝各科の精密検査を受け、更年期障害のみである場合は、更年期・閉経外来で長期の治療が必要

ヶ月間に、該当施設で聞き取りにより施行した。聞き取り調査には、東京医科歯科大学医学部保健衛生学科および東京大学医学部付属病院助産婦学校のご協力を得た。また、アンケート調査の作成および解析にあたり、東京医科歯科大学難治疾患研究所の田中平三教授にご指導とご協力をいただいた。

結果の評価はSMIの点数により症例を2群または3群に分け、質問表の項目のそれぞれについて有意差検定を行った。検定には、t-test、Fisher's exact testおよび χ^2 検定を用いた。質問項目「7-2職業」については現在解析方法を検討中であり、今回の報告からは除外した。

結果：解析対象となった症例は144例で、平均年齢50.4±1.5歳、閉経後65例、未閉経79例、平均妊娠回数3.2±1.2回、平均出産回数2.2±0.7回であった。施

設の内訳は、東京医科歯科大学27例(18.8%)、東京大学15例(10.4%)、東京都管工業組合診療所84例(58.3%)、三楽病院18例(12.5%)であった。SMIの分布は図1に示す如くで、更年期障害として治療を要すると思われる51点以上の症例は43例あり、全体の29.9%を占めていた。また母子手帳の回収率は、第1子71.3%、第2子74.2%、第3子63.4%であった。



SMI51点以上を更年期障害群、50点以下を対照群とした場合の各項目の有意差を表2~4に示す。背景因子の中で2群間に有意差のあった項目は、月経歴において30台の月経が規則的であったこと、および月経時障害が強かったこと、胃・十二指腸潰瘍などの潰瘍性疾患、乳腺疾患、婦人科手術などの既往があること、(妊娠回数) - (出産回数) すなわち出産に至らなかった妊娠の回数が多いこと、甘いものを好まないこと、30台でスポーツをしていなかったことなどであった(表2)。

表2 身体的既往および現症、社会環境、嗜好、文化

項目	有意差	項目	有意差
1 年齢	—	8 喫煙 (20台)	—
2-1 身長	—	(30台)	—
2-2 体重	—	(40台)	—
2-3 血圧	—	9 飲酒 (20台)	—
2-4 血液型	—	(30台)	—
		(40台)	—
3-1 初経年齢	—	10 食餌の嗜好	—
3-2 月経周期 (20台)	—	10-1 甘いもの	—
(30台)	P<0.01	10-2 辛いもの	—
3-3 経時障害 (20台)	—	10-3 酸っぱいもの	—
(30台)	P<0.05	10-4 刺戟の強いもの	—
3-4 閉経年齢	—	10-5 油っこいもの	—
閉経様式	—	10-6 出産後の変化	—
4 既往歴	—	11 牛乳 (10台)	—
4-1 高血圧	—	(20台)	—
4-2 糖尿病	—	(30台)	—
4-3 潰瘍性疾患	P<0.05	(40台)	—
4-4 肝臓疾患	—	12 自分の時間 (学生)	—
4-5 リウマチ	—	(20台)	—
4-6 他の膠原病	—	(30台)	—
4-7 腎臓疾患	—	(40台)	—
4-8 甲状腺疾患	—	13 スポーツ (学生)	—
4-9 乳癌疾患	P<0.05	(20台)	—
4-10 婦人科手術	P<0.02	(30台)	P<0.05
4-11 骨折	—	(40台)	—
5-1 結婚	—		
5-2 離婚	—		
5-3 死別	—		
5-4 再婚	—		
6-1 妊娠回数	— ※		
6-2 出産回数 (6-1)-(6-2)	P<0.05		
7-1 学歴	—		
7-2 職業	—		

※SMIにより3群に分けた場合に有意差が出た項目

表3 妊娠・出産・育児

項目	有意差	項目	有意差
14 産前検診 (1子)	—	20-4 契父母の反応 (1子)	—
(2子)	—	(2子以降)	—
(3子)	—	20-5 契父母の協力 (1子)	—
15 出産時家族構成 (1子)	—	(2子以降)	—
(2子)	— ※	20-6 義父母の反応 (1子)	—
(3子)	—	(2子以降)	—
16 出産後の体調 (1子)	—	20-7 義父母の協力 (1子)	—
(2子)	P<0.02	(2子以降)	—
(3子)	—	20-8 授乳・育児のやりがい (1子)	—
17 母乳の期間 (1子)	—	(2子以降)	— ※
(2子)	—	20-9 育児の感想 (1子)	—
(3子)	—	(2子以降)	—
18 出産後の月経 (1子)	—	20-10 医師の印象	P<0.05
(2子)	—	20-11 助産婦・看護婦の印象	P<0.05
(3子)	—	20-12 自分の時間	—
19 出産後の就業 (1子)	—	20-13 その感想	—
(2子)	—		
(3子)	—		
子供の世話 (1子)	— ※		
(2子)	—		
(3子)	—		
20-1 妊娠・出産の感想 (1子)	—		
(2子以降)	—		
20-2 夫の反応 (1子)	—		
(2子以降)	—		
20-3 夫の協力 (1子)	—		
(2子以降)	—		

※SMIにより3群に分けた場合に有意差が出た項目

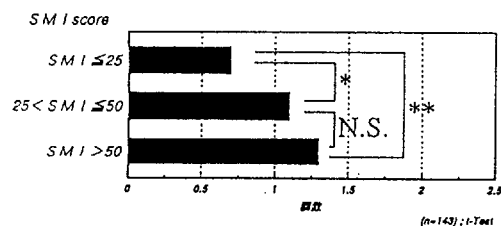
表4 母子手帳から

項目	有意差	項目	有意差
1 妊娠時の年齢 (1子)	—	3-5 最後の健診 (1子)	—
(2子)	—	(2子)	—
(3子)	—	(3子)	—
2 妊娠初期の状態	—	体重 (1子)	—
2-1 健診時期 (1子)	—	(2子)	—
(2子)	—	(3子)	—
(3子)	—		
4 出産の記事	—	4-1 出産時期 (1子)	—
2-2 浮腫 (1子)	—	(2子)	—
(2子)	—	(3子)	—
(3子)	—	4-2 陣痛発来 (1子)	—
2-3 蛋白尿 (1子)	—	(2子)	—
(2子)	—	(3子)	—
(3子)	—	4-3 分娩の異常 (1子)	—
2-4 血圧 (1子)	—	(2子)	—
(2子)	—	(3子)	—
(3子)	—	4-4 産科手術 (1子)	P<0.05
2-5 体重 (1子)	—	(2子)	—
(2子)	P<0.05	(3子)	—
(3子)	—	5 一か月健診	—
3 妊婦健診	—	5-1 体重 (1子)	—
3-1 健診の回数 (1子)	—	(2子)	—
(2子)	—	(3子)	—
(3子)	—	5-2 授乳 (1子)	—
3-2 血圧 (1子)	—	(2子)	—
(2子)	—	(3子)	—
(3子)	—	6 新生児の記事	—
3-3 尿蛋白 (1子)	—	6-1 子供の数	—
(2子)	—	6-2 体重	—
(3子)	—	6-5 特記事項	—
3-4 浮腫 (1子)	—		
(2子)	—		
(3子)	—		

※SMIにより3群に分けた場合に有意差が出た項目

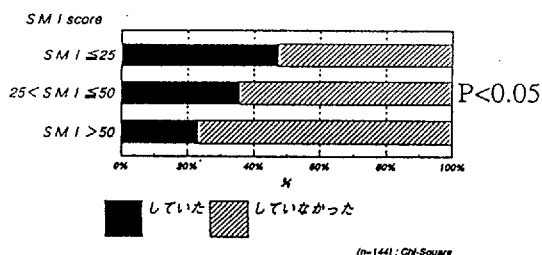
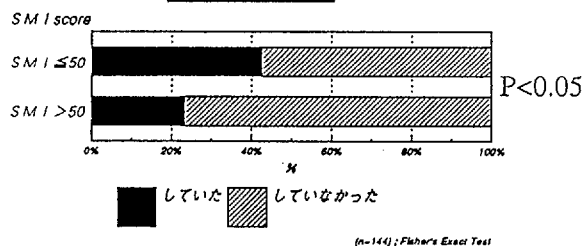
出産に至らなかった妊娠の回数は、SMI26点以上の群で、それ以下の群より有意に多くなっていた(図2)。また30歳代でのスポーツは、SMIが高得点になるほど少なくなるという相関関係が認められた(図3)。

図2 妊娠回数-出産回数



* P < 0.05 ** P < 0.01

図3 13.スポーツ(30代)



妊娠・出産・育児に関する心理社会的要因の中では、第2子出産後の体調が悪かったと感じていること(図4)、および第1子出産時の医療スタッフに対する印象が悪くなかったこと(図5、図6)などの項目で有意差が認められた。これらの項目では、SMI25点以下の群を別にして症例を3群に分けた場合にも同様の有意差が認められ、SMIが高得点になるほどその傾向が強まるという関係があった。またSMI26点以上の群とそれ以下の群とを比較すると、SMI26点以上の群では、第2子出産時に核家族であったこと(図7)、第1子出産後に夫婦や身内の者だけで子供の面倒を見

ながら働いていたこと(図8)、第2子以降の授乳や育児に充実感が少ないこと(図9)などの要因が有意に多く認められた。里帰り分娩の有無や授乳の期間、出産時の家族の反応や協力の程度には有意差は見られなかった(表3)。

図4 16.出産後の体調(第2子)

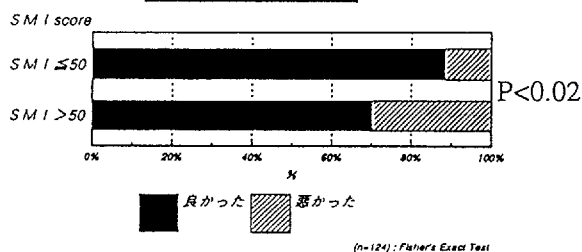


図5 20-10.医師に対する印象

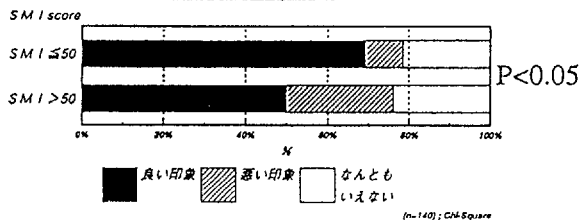


図6 20-11.助産師・看護婦に対する印象

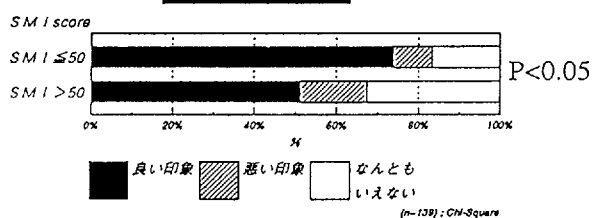


図7 15.出産前後の家族構成(第2子出産のころ)

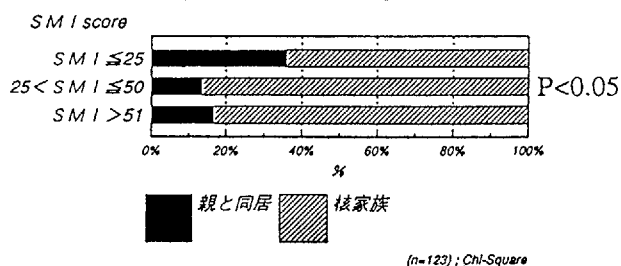


図8 19-1. 出産後子供の世話 (第1子)

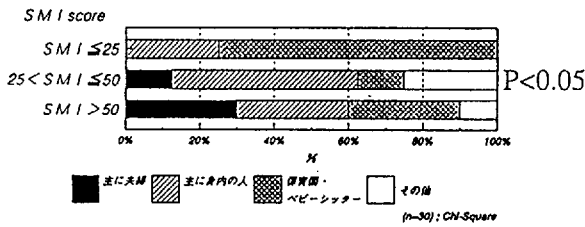
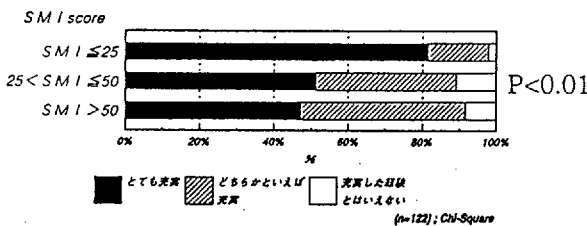
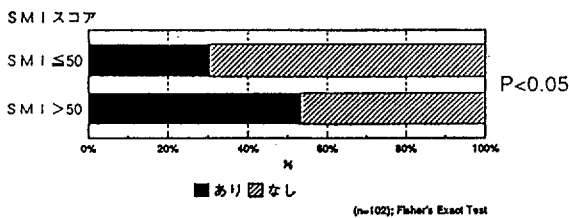


図9 20-8. 授乳や育児のやりがい (第2子以降)



さらに母子手帳から得られた妊娠・分娩に関する産科的要因の中では、第2子妊娠初期の体重が多かったこと、第1子出産時に産科手術を受けたこと(図10)などの項目で有意差が認められた(表4)。

図10 母子手帳 4. お産の記事 4-4. 産科手術 (第1子)



考察：更年期障害は、エストロゲンの消退に起因する内分泌因子以外に、個人の性格因子や個人をとりまく環境因子などが複雑に関わりあって生じるbio-psycho-socialな症候群と考えられている。しかし実際には、その全体像や諸因子相互の因果関係を把握することは容易ではなく、全人的なアプローチは十分になされていないのが現状である。しかし女性の平均寿命が80歳を超える現在、更年期は第2の人生の始まりとなる重要な時期であり、この時期をいかに過ごすかはその後の心身の健康に大きな影響を及ぼすと考えられる。妊娠・分娩という事象は更年期とは対称的に女性性の成熟を象徴する出来事であると同時に、更年期と同様女

性にとってひとつの大きなふしめでもある。従って両者の関連を検討することにより、更年期障害に対する心身両面からのアプローチにひとつの手がかりを得ることが期待される。

更年期障害と関連のある因子として、文献的には社会階層が低いと更年期障害が強いこと³⁾、逆に才能を生かせる仕事に従事していたり、社会的サポートシステムを持っている場合は障害が弱いこと⁴⁾、また間接的な背景因子として、生育歴の早い時期に母親と別れたことや子供との関係が親密でありすぎる場合には、更年期を含めた生活上の出来事に対する耐性が弱いこと⁵⁾などがあげられているが、妊娠・分娩と更年期障害との関連を検討したものはほとんどない。そこで我々は独自の調査表を作成し、更年期婦人を対象にした聞き取り調査を行い、両者の関連の有無および焦点となる項目を明らかにすることを試みた。

SM I 51点以上を更年期障害群、50点以下を更年期障害が軽いかまたはほとんど無い対照群として症例を2群に分けた場合、背景因子の中で更年期障害との関連が認められた項目は、①30歳代の月経が規則的であったことおよび、月経時障害が強かったこと、②潰瘍性疾患、乳腺疾患、婦人科手術などの既往を持つこと、③甘いものを好まないこと、④30歳代でスポーツをしていなかったことの4項目であった。また妊娠・分娩に関する項目の中では、①出産に至らなかった妊娠の回数が多いこと、②第1子出産時に産科手術を要したこと、③第1子出産時の医療スタッフに対して良い印象を持てなかったこと、④第2子妊娠時の体重増加傾向、⑤第2子出産後の回復不良などの要因が更年期障害と関連を持っている可能性が認められた。さらにSM I 25点以下の更年期障害がほとんど無い群を加えて症例を3群に分けた場合には、⑥第1子出産後、他人の手を借りずに子どもの世話をしながら就業していたこと、⑦第2子出産後核家族であったこと、⑧第2子以降の授乳や育児に充実感が少なかったことなども更年期障害との関連が認められた。

今回有意差の認められた項目は、いずれも心身両面から更年期障害との関連を示すものであり、また項目間相互の関連性も推測される。例えば月経の規則性や月経時障害は、性成熟期に卵巣機能が正常であったことを示しており、このような症例では更年期におこる卵巣機能の衰退がより大きな身体的変化を生じる可能性が考えられるが、同時に月経とそれに伴う痛みが心理的な外傷体験となって女性としての自我同一性に障害を与えていた可能性も考えられる。また潰瘍性疾患

の既往は、これらの症例が心身症に罹患しやすい素因を持っていることを示しているし、乳腺疾患や婦人科手術の既往は、これらの症例が内分泌学的影響を受けやすい素因を有している可能性を推測させる。項目間相互の関連としては、産科手術の経験が医療スタッフに対する印象を悪くしたり、第2子出産後の育児に十分なサポートが得られなかった場合に、産後の回復が悪く、育児に対する充実感が薄くなるなどの可能性が考えられる。

単純集計の段階で有意差の見られた個々の項目と更年期障害との関連を論じることには限界があると思われるが、少なくとも今回の調査で、出産時の産科的要因や産後の身体状況のみならず、妊娠・出産・育児をとりまく心理社会的要因も更年期障害に関連している可能性があること、また性成熟期の内分泌的環境やライフスタイルなども更年期障害に関連している可能性があることが明らかになった。この結果は更年期障害がbio-psycho-socialな症候群であることを改めて確認させるものであり、さらに更年期障害を女性性や母性を含めた女性の人生の延長上にあるものとしてとらえる必要があることを示唆するものといえよう。今後これらの項目に多変量解析などの手法を応用すること

により、妊娠・出産と更年期障害を関連づける因子を明らかにしていくことができると思われる。またSMIの結果から得られる更年期障害のタイプとそれぞれの因子との関連を検討することにより、各因子の意味づけがより明確になると思われるので、この角度からもさらに検討を加えていきたいと考えている。

- 文献：1) 小山嵩夫；更年期・閉経外来．日本医師会雑誌 109:259-264, 1993
- 2) 小山嵩夫、麻生武志；更年期婦人における漢方治療：簡略化した更年期指数による評価．産婦人科漢方 研究のあゆみ 9:30-34, 1992
- 3) van Keep P.A., Kellerhals J.M.; Psychother. Psychosomat., 23: 251-63, 1974
- 4) van Keep P.A.; in Dennerstein L., Burrows G.D.; Handbook of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology, 483-90. Elsevier Biomedical Press, Amsterdam 1983
- 5) Cooke D.J.; in Broome A., Wallace L.,; Psychology and Gynecological Problems, 243-65. Tavistock Publications, London 1984

身体的既往および現症

1. 生年月日・年齢 (昭和 年 月 日; 満 歳¹⁻¹) 1-1.
2. 現在の状態 2-1.
 2-1. 身長 _____ cm (小数点以下四捨五入)
 2-2. 体重 _____ kg (小数点以下四捨五入)
 2-3. 血圧 $\frac{2-3-1}{2-3-2}$ / $\frac{2-3-1}{2-3-2}$
 2-4. 血液型 (①A, ②B, ③O, ④AB, ⑤不明) 2-4.
3. 月経について
- 3-1. 初めて月経があったのは何歳頃ですか? (歳) 3-1.
- 3-2. 月経の周期性
- 20代 3-2-1. ①規則的にあった (25~35日周期)
 ②不規則だった (25日未満または、35日~3ヶ月周期)
 ③かなり不規則だった (3ヶ月以上の間隔)
 ④無かった (摘出などで) () 3-2-1.
- 30代 3-2-2. ①規則的にあった (25~35日周期)
 ②不規則だった (25日未満または、35日~3ヶ月周期)
 ③かなり不規則だった (3ヶ月以上の間隔)
 ④無かった (摘出などで) () 3-2-2.
- 3-3. 月経時の障害
- 20代 3-3-1. ①生理痛は強く、鎮痛剤を服用することが多かった。
 ②生理痛はあったが、鎮痛剤を飲むほどではなかった。
 ③生理痛はほとんどなかった。
 ④月経が無かった (3-2.で④の場合) 3-3-1.
- 30代 3-3-2. ①生理痛は強く、鎮痛剤を服用することが多かった。
 ②生理痛はあったが、鎮痛剤を飲むほどではなかった。
 ③生理痛はほとんどなかった。
 ④月経が無かった (3-2.で④の場合) 3-3-2.
- 3-4. 閉経について (月経が終わっている方のみ)
- 3-4-1. 閉経の年齢を書いてください。 (歳頃) 3-4-1.
- 3-4-2. 閉経の様式は (①自然閉経・②人工閉経) 3-4-2.
4. 次にあげたような病気や手術をしたことがありますか?
- 4-1. 高血圧 (①あり ・ ②なし) 4-1.
- 4-2. 糖尿病 (①あり ・ ②なし) 4-2.
- 4-3. 胃・十二指腸潰瘍 (①あり ・ ②なし) 4-3.
- 4-4. 肝臓機能障害 (①あり ・ ②なし) 4-4.
- 4-5. リウマチ (①あり ・ ②なし) 4-5.
- 4-6. その他の膠原病 (①あり ・ ②なし) 4-6.
- 4-7. 腎臓の病気 (①あり ・ ②なし) 4-7.
- 4-8. 甲状腺疾患 (①あり ・ ②なし) 4-8.
- 4-9. 乳腺の病気 (①あり ・ ②なし) 4-9.
- 4-10. 婦人科手術 (①あり ・ ②なし) 4-10.
- 4-11. 骨折 (①あり ・ ②なし) 4-11.

社会環境

5. 結婚について

(30代までに、以下のことを経験したかどうかお答えください。)

- | | | |
|--------------------|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 5-1. 結婚したことがありますか? | (①あり (歳 ⁵⁻¹⁻¹) ・ ②なし) | 5-1. <input type="checkbox"/> 5-1-1. <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |
| 5-2. 離婚したことがありますか? | (①あり (歳 ⁵⁻²⁻¹) ・ ②なし) | 5-2. <input type="checkbox"/> 5-2-1. <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |
| 5-3. 死別したことがありますか? | (①あり (歳 ⁵⁻³⁻¹) ・ ②なし) | 5-3. <input type="checkbox"/> 5-3-1. <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |
| 5-4. 再婚したことがありますか? | (①あり (歳 ⁵⁻⁴⁻¹) ・ ②なし) | 5-4. <input type="checkbox"/> 5-4-1. <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |

6. 妊娠・出産について

- | | | |
|---------------------------------|---------|--------------------------------------------------------|
| 6-1. 妊娠したのは何回ですか (中絶・死産を含む)? | _____ 回 | 6-1. <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |
| 6-2. 出産したのは何回ですか (8ヶ月以上の死産を含む)? | _____ 回 | 6-2. <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |

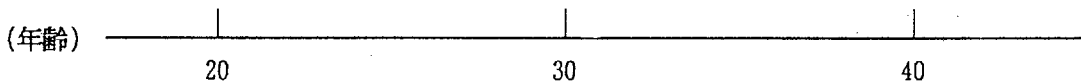
7. 学歴と職業について

- 7-1. 最後に卒業した学校は 7-1.

- ①中学
- ②高校
- ③専門学校
- ④短期大学
- ⑤大学
- ⑥その他 (旧制学校など) 具体的に ()

7-2. 職業について

(経験した
ことがら)



(仕事の
有無)

[参考] (経験したことがら)

- | | | | | |
|--------|--------|-----|-----|----|
| ○結婚 | X離婚 | ◎再婚 | ◆死別 | |
| △第1子出産 | △第2子出産 | | | など |

(仕事)

- ・それぞれの事象の間で仕事をしていれば○、していなければX。
- ・具体的な内容もわかれば記載してください。

嗜好・文化

8. 喫煙の有無

- 8-1. 20代
- 8-2. 30代
- 8-3. 40代

①吸った (本/日⁸⁻ⁿ⁻¹) (年⁸⁻ⁿ⁻²)
 ②吸わなかった

8-1.
 8-1-1. 8-1-2.
 8-2.
 8-2-1. 8-2-2.
 8-3.
 8-3-1. 8-3-2.

9. 飲酒の有無

- 9-1. 20代
- 9-2. 30代
- 9-3. 40代

9-n-1. ①ほとんど毎日飲んだ
 ②時々飲んだ
 ③めったに飲まなかった
 ④飲めなかった

9-n-2. その年数(およそ)

9-1-1. 9-1-2.
 9-2-1. 9-2-2.
 9-3-1. 9-3-2.

10. 食事の嗜好 (主に30代)

- 10-1. 甘いもの
- 10-2. 塩辛いもの
- 10-3. 酸っぱいもの
- 10-4. 刺激の強いもの
- 10-5. 油っこいもの

①好きだった
 ②嫌いだった
 ③どちらともいえない

10-1.
 10-2.
 10-3.
 10-4.
 10-5.

- 10-6. 第1子出産後の嗜好の変化
 (①あった・②なかった・③わからない)

10-6.

11. 牛乳 (脱脂粉乳も含む)

- 11-1. 10代
- 11-2. 20代
- 11-3. 30代
- 11-4. 40代

①毎日必ず飲んだ
 ②ときどき飲んだ
 ③ほとんど飲まなかった
 ④飲めなかった

11-1.
 11-2.
 11-3.
 11-4.

12. 自分のために使える時間

- 12-1. 学生時代
- 12-2. 20代
- 12-3. 30代
- 12-4. 40代

①かなりあった
 ②あった
 ③なかった
 ④わからない(不明)

12-1.
 12-2.
 12-3.
 12-4.

13. スポーツ

- 13-1. 学生時代
- 13-2. 20代
- 13-3. 30代
- 13-4. 40代

①積極的にしていた
 ②していた
 ③しなかった
 ④不明

13-1.
 13-2.
 13-3.
 13-4.

妊娠・出産・育児

14. 里帰り分娩について

- 14-1. 第1子
- 14-2. 第2子
- 14-3. 第3子
- 14-4. 第4子
- 14-5. 第5子

- ①里帰り分娩だった
- ②里帰りはしなかった
- ③不明

- 14-1.
- 14-2.
- 14-3.
- 14-4.
- 14-5.

15. 出産前後の家族構成（里帰り分娩を除く）

- 15-1. 第1子出産のころ
- 15-2. 第2子出産のころ
- 15-3. 第3子出産のころ
- 15-4. 第4子出産のころ
- 15-5. 第5子出産のころ

- ①自分の家族と同居
- ②夫の家族と同居
- ③核家族
- ④不明

- 15-1.
- 15-2.
- 15-3.
- 15-4.
- 15-5.

16. 出産後の体調（出産後1ヶ月ころまで）

- 16-1. 第1子
- 16-2. 第2子
- 16-3. 第3子
- 16-4. 第4子
- 16-5. 第5子

- ①良かった
- ②悪かった
- ③不明

- 16-1.
- 16-2.
- 16-3.
- 16-4.
- 16-5.

17. 母乳をあげていた期間（混合も含む）

- 17-1. 第1子
- 17-2. 第2子
- 17-3. 第3子
- 17-4. 第4子
- 17-5. 第5子

- ①ほとんどなし（1ヶ月未満）
- ②3ヶ月頃まで
- ③6ヶ月頃まで
- ④6ヶ月以上
- ⑤不明

- 17-1.
- 17-2.
- 17-3.
- 17-4.
- 17-5.

18. 出産後の月経の再開

- 18-1. 第1子
- 18-2. 第2子
- 18-3. 第3子
- 18-4. 第4子
- 18-5. 第5子

- ①6ヶ月以内
- ②6ヶ月～1年
- ③1年以上
- ④月経再開前に次の子を妊娠した
- ⑤不明

- 18-1.
- 18-2.
- 18-3.
- 18-4.
- 18-5.

(続)

	第1子出産の時	第2子以降
20-5. 自分の親の協力 ①協力的だった。 ②あまり協力的でなかった。 ③全く協力してくれなかった。 ④協力できなかった。 ⑤不明	20-5-1. <input type="checkbox"/>	20-5-2. <input type="checkbox"/>
20-6. 夫の親の反応 ①喜んでくれた。 ②あまり喜んでくれなかった。 ③無関心 ④かえって嫌がられた。 ⑤不明 (死去していた場合を含む)	20-6-1. <input type="checkbox"/>	20-6-2. <input type="checkbox"/>
20-7. 夫の親の協力 ①協力的だった。 ②あまり協力的でなかった。 ③全く協力してくれなかった。 ④協力できなかった。 ⑤不明	20-7-1. <input type="checkbox"/>	20-7-2. <input type="checkbox"/>
20-8. 授乳や育児は・・・ ①やりがいのある、充実した経験だった。 ②どちらかと言えば、充実した経験だった。 ③充実した経験だったとはいえない。 ④不明	20-8-1. <input type="checkbox"/>	20-8-2. <input type="checkbox"/>
20-9. 子供について・・・ ①育児には大変手がかかった。 ②思ったほど手はかからなかった。 ③どちらともいえない。 ④不明	20-9-1. <input type="checkbox"/>	20-9-2. <input type="checkbox"/>

20-10. 最初の出産の時の医師に対するあなたの印象は？

20-10.

- ①良い印象だった。
- ②悪い印象だった。
- ③なんともいえない。
- ④不明

20-11. 最初の出産の時の助産婦・看護婦に対するあなたの印象は？

20-11.

- ①良い印象だった。
- ②悪い印象だった。
- ③なんともいえない。
- ④不明

20-12. 子供から手が離れて、自分の時間を持てるようになったと思ったのはいつ頃ですか？

- ①子供が小学校に行くようになった頃
- ②子供が中学校に行くようになった頃
- ③子供が高校に行くようになった頃
- ④子供が大学生になってから
- ⑤子供が就職してから
- ⑥子供が結婚してから
- ⑦まだ手が離れていない
- ⑧その他 ()

20-12.

20-13. 子供から手が離れて自分の時間を持てるようになった時、どのように感じましたか？

- ①目的を失ったようで、寂しく感じた。
- ②これからが自分の人生だと感じた。
- ③特に何も感じなかった。
- ④まだ手が離れていない。
- ⑤その他 ()

20-13.

ご協力ありがとうございました。

母子手帳から

第1子

1. 妊娠したときの年齢 (満) (歳) 1.
2. 妊娠初期の状態
- 2-1. 健診時期 (月) 2-1.
- 2-2. 浮腫 (①(-)・②(±)・③(+)
④(++)
⑤(+++)・⑥記載無し) 2-2.
- 2-3. 蛋白尿 (①(-)・②(±)・③(+)
④(++)
⑤(+++)・⑥記載無し) 2-3.
- 2-4. 収縮期血圧 (①160mmHg以上・②140-159mmHg
③139mmHg以下・④記載なし) 2-4.
- 2-5. 体重 (. kg) 2-5. .
3. 妊婦健診
- 3-1. 妊婦健診を受けた回数 (回) 3-1.
- 3-2. 収縮期血圧 3-2-1. (160mmHg以上) (回) 3-2-1.
- 3-2-2. (140-159mmHg) (回) 3-2-2.
- 3-3. 尿蛋白(++)以上 (回) 3-3.
- 3-4. 浮腫 (++)以上 (回) 3-4.
- 3-5. 最後の健診の時期と体重 3-5-1. 時期 (月) 3-5-1.
- 3-5-2. 体重 (. kg) 3-5-2. .
4. お産の記事
- 4-1. 出産時期 (月) 4-1.
- 4-2. 陣痛発来状況 (①自然・②人工・③記載なし) 4-2.
- 4-3. 分娩 (①正常・②異常()・③記載なし) 4-3.
- 4-4. 産科手術 (①無し・②有り()・③記載なし) 4-4.
5. 1 か月健診時の産婦の状態
- 5-1. 体重 (. kg) 5-1. .
- 5-2. 授乳 (①母乳・②人工・③混合・④記載無し) 5-2.
6. 新生児の記事
- 6-1. 子どもの数 (①ひとり・②ふたご・③三つ子以上・④記載なし) 6-1.
- 6-2. 体重 ひとり: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-2.
- 6-3. // ふたご: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-3.
- 6-4. // みつご: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-4.
- 6-5. 特記事項 (①なし・②あり()) 6-5.

第2子

1. 妊娠したときの年齢 (満) (歳) 1.
2. 妊娠初期の状態
- 2-1. 健診時期 (月) 2-1.
- 2-2. 浮腫 (①(-)・②(±)・③(+)
④(++)・⑤(+++)・⑥記載無し) 2-2.
- 2-3. 蛋白尿 (①(-)・②(±)・③(+)
④(++)・⑤(+++)・⑥記載無し) 2-3.
- 2-4. 収縮期血圧 (①160mmHg以上・②140-159mmHg
③139mmHg以下・④記載なし) 2-4.
- 2-5. 体重 (. kg) 2-5. .
3. 妊婦健診
- 3-1. 妊婦健診を受けた回数 (回) 3-1.
- 3-2. 収縮期血圧 3-2-1. (160mmHg以上) (回) 3-2-1.
- 3-2-2. (140-159mmHg) (回) 3-2-2.
- 3-3. 尿蛋白(++)以上 (回) 3-3.
- 3-4. 浮腫 (++)以上 (回) 3-4.
- 3-5. 最後の健診の時期と体重 3-5-1. 時期 (月) 3-5-1.
- 3-5-2. 体重 (. kg) 3-5-2. .
4. お産の記事
- 4-1. 出産時期 (月) 4-1.
- 4-2. 陣痛発来状況 (①自然・②人工・③記載なし) 4-2.
- 4-3. 分娩 (①正常・②異常()・③記載なし) 4-3.
- 4-4. 産科手術 (①無し・②有り()・③記載なし) 4-4.
5. 1 か月健診時の産婦の状態
- 5-1. 体重 (. kg) 5-1. .
- 5-2. 授乳 (①母乳・②人工・③混合・④記載無し) 5-2.
6. 新生児の記事
- 6-1. 子どもの数 (①ひとり・②ふたご・③三つ子以上・④記載なし) 6-1.
- 6-2. 体重 ひとり: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-2.
- 6-3. // ふたご: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-3.
- 6-4. // みつご: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-4.
- 6-5. 特記事項 (①なし・②あり()) 6-5.

第3子

1. 妊娠したときの年齢 (満) (歳) 1.
2. 妊娠初期の状態
- 2-1. 健診時期 (月) 2-1.
- 2-2. 浮腫 (①(-)・②(±)・③(+)
④(++)・⑤(+++)・⑥記載無し) 2-2.
- 2-3. 蛋白尿 (①(-)・②(±)・③(+)
④(++)・⑤(+++)・⑥記載無し) 2-3.
- 2-4. 収縮期血圧 (①160mmHg以上・②140-159mmHg
③139mmHg以下・④記載なし) 2-4.
- 2-5. 体重 (. kg) 2-5. .
3. 妊婦健診
- 3-1. 妊婦健診を受けた回数 (回) 3-1.
- 3-2. 収縮期血圧 3-2-1. (160mmHg以上 (回) 3-2-1.
- 3-2-2. (140-159mmHg (回) 3-2-2.
- 3-3. 尿蛋白(++)以上 (回) 3-3.
- 3-4. 浮腫 (++)以上 (回) 3-4.
- 3-5. 最後の健診の時期と体重 3-5-1. 時期 (月) 3-5-1.
- 3-5-2. 体重 (. kg) 3-5-2. .
4. お産の記事
- 4-1. 出産時期 (月) 4-1.
- 4-2. 陣痛発来状況 (①自然・②人工) 4-2.
- 4-3. 分娩 (①正常・②異常()・③記載なし) 4-3.
- 4-4. 産科手術 (①無し・②有り()・③記載なし) 4-4.
5. 1 か月健診時の産婦の状態
- 5-1. 体重 (. kg) 5-1. .
- 5-2. 授乳 (①母乳・②人工・③混合・④記載無し) 5-2.
6. 新生児の記事
- 6-1. 子どもの数 (①ひとり・②ふたご・③三つ子以上・④記載なし) 6-1.
- 6-2. 体重 ひとり: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-2.
- 6-3. // ふたご: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-3.
- 6-4. // みつご: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-4.
- 6-5. 特記事項 (①なし・②あり()) 6-5.

第4子

1. 妊娠したときの年齢 (満) (歳) 1.
2. 妊娠初期の状態
- 2-1. 健診時期 (月) 2-1.
- 2-2. 浮腫 (①(-)・②(±)・③(+)
④(++)・⑤(+++)・⑥記載無し) 2-2.
- 2-3. 蛋白尿 (①(-)・②(±)・③(+)
④(++)・⑤(+++)・⑥記載無し) 2-3.
- 2-4. 収縮期血圧 (①160mmHg以上・②140-159mmHg
③139mmHg以下・④記載なし) 2-4.
- 2-5. 体重 (. kg) 2-5. .
3. 妊婦健診
- 3-1. 妊婦健診を受けた回数 (回) 3-1.
- 3-2. 収縮期血圧 3-2-1. (160mmHg以上 回) 3-2-1.
- 3-2-2. (140-159mmHg 回) 3-2-2.
- 3-3. 尿蛋白(++)以上 (回) 3-3.
- 3-4. 浮腫 (++)以上 (回) 3-4.
- 3-5. 最後の健診の時期と体重 3-5-1. 時期 (月) 3-5-1.
- 3-5-2. 体重 (. kg) 3-5-2. .
4. お産の記事
- 4-1. 出産時期 (月) 4-1.
- 4-2. 陣痛発来状況 (①自然・②人工) 4-2.
- 4-3. 分娩 (①正常・②異常()・③記載なし) 4-3.
- 4-4. 産科手術 (①無し・②有り()・③記載なし) 4-4.
5. 1 か月健診時の産婦の状態
- 5-1. 体重 (. kg) 5-1. .
- 5-2. 授乳 (①母乳・②人工・③混合・④記載無し) 5-2.
6. 新生児の記事
- 6-1. 子どもの数 (①ひとり・②ふたご・③三つ子以上・④記載なし) 6-1.
- 6-2. 体重 ひとり: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-2.
- 6-3. // ふたご: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-3.
- 6-4. // みつご: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-4.
- 6-5. 特記事項 (①なし・②あり()) 6-5.

第5子

1. 妊娠したときの年齢 (満) (歳) 1.

2. 妊娠初期の状態

2-1. 健診時期 (月) 2-1.

2-2. 浮腫 (①(-)・②(±)・③(+)
④(++)・⑤(+++)・⑥記載無し) 2-2.

2-3. 蛋白尿 (①(-)・②(±)・③(+)
④(++)・⑤(+++)・⑥記載無し) 2-3.

2-4. 収縮期血圧 (①160mmHg以上・②140-159mmHg
③139mmHg以下・④記載なし) 2-4.

2-5. 体重 (. kg) 2-5. .

3. 妊婦健診

3-1. 妊婦健診を受けた回数 (回) 3-1.

3-2. 収縮期血圧 3-2-1. (160mmHg以上) (回) 3-2-1.

3-2-2. (140-159mmHg) (回) 3-2-2.

3-3. 尿蛋白(++)以上 (回) 3-3.

3-4. 浮腫 (++)以上 (回) 3-4.

3-5. 最後の健診の時期と体重 3-5-1. 時期 (月) 3-5-1.

3-5-2. 体重 (. kg) 3-5-2. .

4. お産の記事

4-1. 出産時期 (月) 4-1.

4-2. 陣痛発来状況 (①自然・②人工) 4-2.

4-3. 分娩 (①正常・②異常()・③記載なし) 4-3.

4-4. 産科手術 (①無し・②有り()・③記載なし) 4-4.

5. 1 か月健診時の産婦の状態

5-1. 体重 (. kg) 5-1. .

5-2. 授乳 (①母乳・②人工・③混合・④記載無し) 5-2.

6. 新生児の記事

6-1. 子どもの数 (①ひとり・②ふたご・③三つ子以上・④記載なし) 6-1.

6-2. 体重 ひとり: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-2.

6-3. // ふたご: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-3.

6-4. // みつご: (①2,500g以上・②2,000~2,499g・③2,000g未満) 6-4.

6-5. 特記事項 (①なし・②あり()) 6-5.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:過去に経験した妊娠・分娩と更年期障害の関連を検討する目的で、独自の質問表を作成し、更年期女性を対象に聞き取り調査をおこなった。今回は単純集計の段階で結論的なことは言えないが、出産時の産科的要因や産後の身体状況のみならず、妊娠・出産・育児をとりまく心理社会的要因も更年期障害に関連している可能性が示唆された。また、性成熟期の内分泌的環境やライフスタイルなども更年期障害に関連している可能性が明らかになった。今後さらに解析を進め、この両者を関連づける因子を明らかにすることにより、更年期障害に対する全人的アプローチのてがかりを得ることが期待される。